

2) 林床管理計画

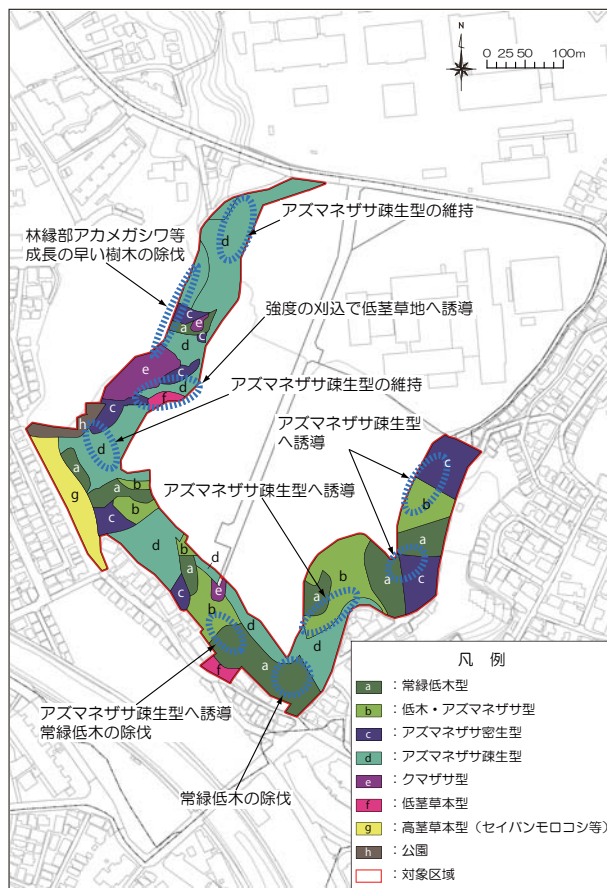
① 林床管理の基本的な考え方

- 基本的には現状の林床を維持します。
- 春植物や貴重植物の生育地に関しては、生育環境維持のため、低茎草本型およびアズマネザサ疎生型として維持します。
- 茂った林床を利用する、小動物や小鳥などの生息環境を保全するエリアを設けます。

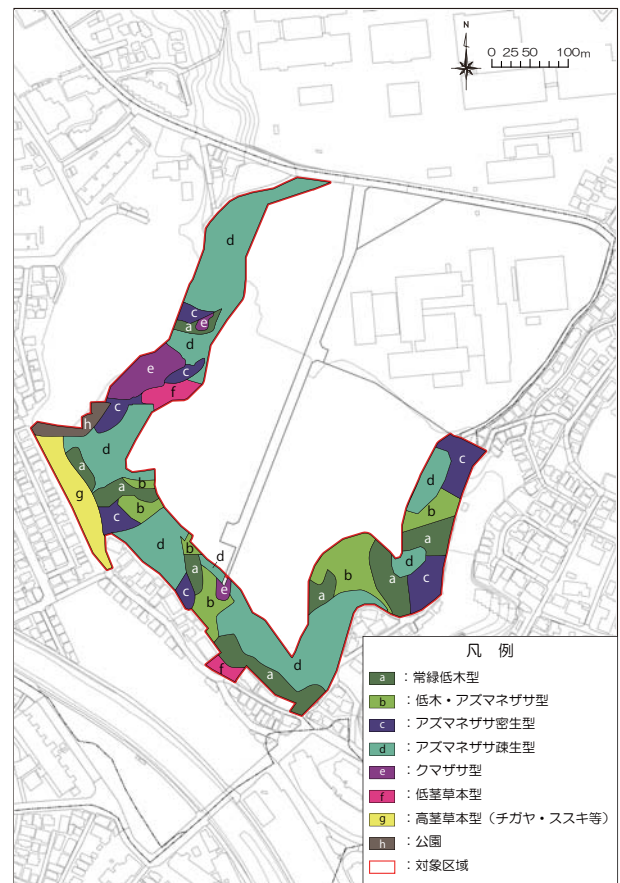
② 管理内容

- 春植物や貴重植物の生育環境維持のため、低茎草本型およびアズマネザサ疎生型の林床を維持できるよう、強度の下刈りを実施します。
- 茂った林床を利用する小動物や小鳥などの生息環境を保全するエリアについては、アズマネザサなどのササ類や、アオキ、ヒサカキ等低木類を残します。
- 低木の除伐対象は常緑樹として、落葉樹は原則残します。但し、アカメガシワ等成長の速い樹木は除伐対象とします。
- 下草刈りや除伐で発生した植物性廃棄物は、場外搬出を原則とします。

③ 目標林床植生図



現状林床植生図



目標林床植生図

3) 施設管理計画

①施設管理の基本的な考え方

- 土壌浸食が確認されている場所については、構造物（土留め柵等）の設置による対策の他、下草刈りを控え、ササ類や低木を繁茂させ、根系発達による土壌の緊縛化を誘導することで土壌の浸食を防止します。

②管理内容

- 土留めに使用する素材は、基本的に木質素材としますが、土壌崩壊が著しく、コンクリート等の永久構造物でないと防げない場合は、安全性を優先して、素材や工法を選択します。

■急傾斜地の危険箇所の状況



•西地区 エリア(A) 斜面地の状況



斜面景観



根系露出樹木

•西地区 エリア(B) 斜面地の状況

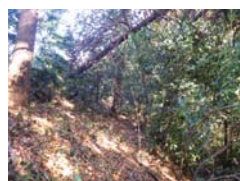


斜面景観



根系露出樹木

•東地区 斜面地の状況



斜面景観



旧土留め柵設置状況



急傾斜地危険箇所における土留め柵設置イメージ

← 西地区急斜面地の土砂流出箇所を例に、丸太柵による土留めのイメージを示しました。

(3) 生物に配慮した植生管理

生物調査の結果を基に、対象区域内で確認された主な動植物の生態に配慮した、植生管理を立案し、以下の図に示しました。

■シロハラ、アオジ (林床に生息する鳥類)

秋冬に飛来するシロハラやアオジは、林床にアズマネザサや常緑低木が生育しているような暗い環境を好む。一斉に広範囲の林床を刈り払うことはせず、刈り残しを設けるようにする。

■アオゲラ

大型のキツキ類であるアオゲラが幹に止まり、幹の中に潜む昆虫類などを採食することができるよう、コナラなどの高木を残すようにする。

■トノサマバッタ、エンマコオロギ、ニホンミツバチ、ダイミョウセセリ (草地に生息する昆虫類)

確認されたバッタ類の中にはイネ科草地を好む種(トノサマバッタなど)や草本が疎らで乾燥した場所を好む種(エンマコオロギなど)があり、これらの種が生息するためには多様な草地環境が必要となる。草地全面を一斉に刈り取りすることなく、刈り残しを設けるようにし多様な環境を維持する。さらに、刈り残しの部分には訪花性のハチ類やチョウ類のために、開花植物を含むようにする。

■ヘリグロリンゴカミキリ

アザミ類やヨモギ類を幼虫が餌(食草)とするため、林縁部にこれらの植物が生育しやすい明るい環境を維持するエリアを設け、林床のアズマネザサの刈り取りを行う。

■エナガ、キビタキ

エナガは繁茂した樹冠を好み、キビタキは亜高木層や低木層などの階層構造が発達した樹林を好む。林内の多様な環境が維持できるような管理を行う。

■ウグイス

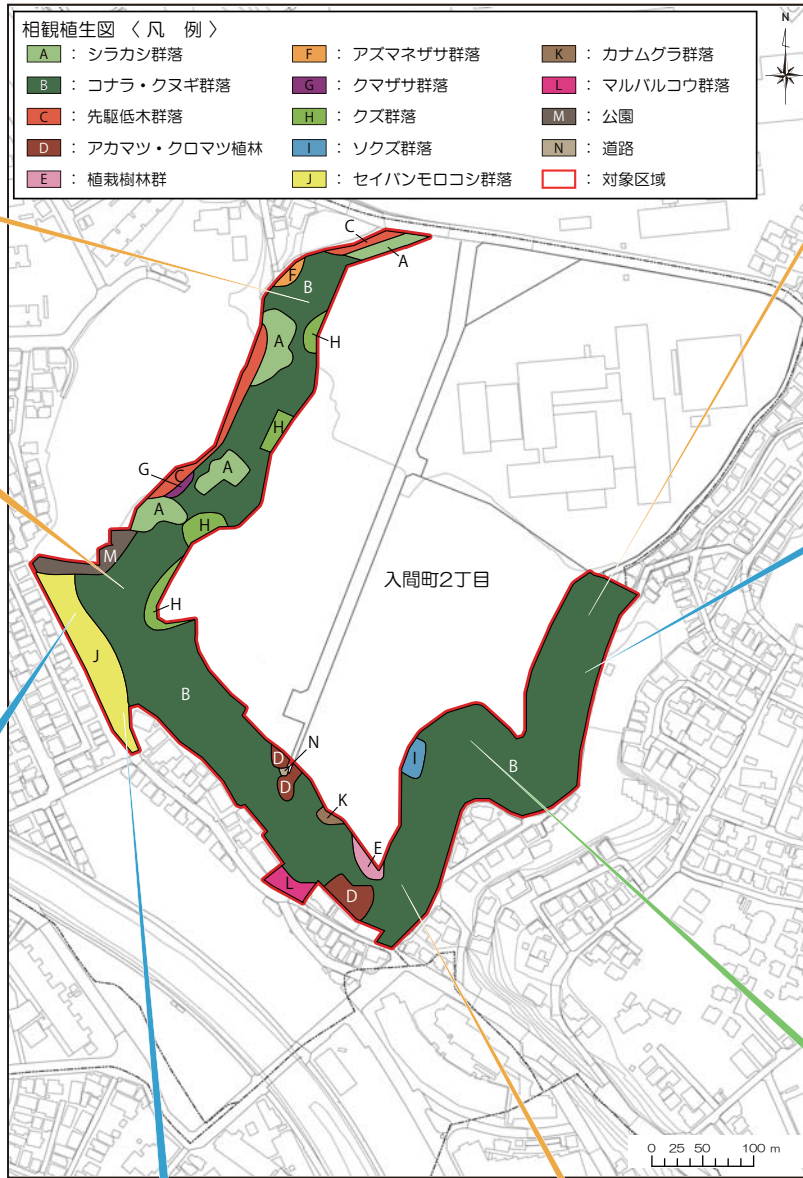
林床のアズマネザサの茂みは、ウグイスの生息場所である。一斉に全域を刈り取ったりはせず、エリアを決めて密な状態で刈り残す。

■キマダラミヤマカミキリ、カブトムシ、コクワガタ (落葉広葉樹林に生息する昆虫類)

枯木(朽木)はキマダラミヤマカミキリやカブトムシ、コクワガタなどの生息場所であり餌となるため、伐採した樹木は玉切りにし林床に積み上げておく。

■キンラン、キンラン、キツネノカミソリ、アマナ (林床に生息する草本類)

林床植物の生育に必要な、早春季の日照を確保するため、生育地およびその周辺において、アオキなどの常緑低木やアズマネザサが繁茂しないよう、刈り取り管理を行う。



相観植生図

※赤字は重要種

(4) 地区別管理計画

管理計画	樹林管理	林床管理	施設管理
西地区	<ul style="list-style-type: none"> 枯死木や材質腐朽などの影響により幹の折損が懸念される危険な樹木（不良木），斜面で不自然に傾斜して倒伏の恐れがある樹木は，発見次第速やかに伐採するとともに，越境した枝などは適宜剪定を行います。 樹林構成種の多様性に配慮し，コナラ，クヌギといった優占種だけでなく，エノキ，イヌザクラ，ウワミズザクラなどの郷土種をはじめ，多くの樹種にも注目して育成します。 都市型樹林としての景観要素も考慮し，樹林内に生育するサクラ類やコブシ，ツツジなどの高木，中低木は選択的に残します。 樹林性の鳥類の生息環境維持のため，階層構造が発達した多様な樹林を持続できる管理を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 林床に生息する，シロハラやアオジ等の林床の暗い環境を好む野鳥のために，一斉に広範囲の刈り払うことはせず，部分的に島状に刈り残すよう配慮します。 キンラン等に代表される春植物などの生育環境を保護するため，アズマネザサや高茎の草本は刈り取り，林床に光がとどくように配慮します。 土砂流出により斜面が裸地している場所については，クマザサ等の地表面を緊縛して安定させる植物の分布域を広げることで，土壌の安定化を図ります。 枯木（朽木）はキマダラミヤマカミキリやカブトムシ，コクワガタなどの生息場所であり餌となるため，伐採した樹木は玉切りにし林床に積み上げておきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 土壌浸食が確認されている場所については，木質材料による土留め柵の設置を行います。但し，土壌崩壊が著しく，コンクリート等の永久構造物でない限りは，安全性を優先して，素材や工法を選択します。
南地区	<ul style="list-style-type: none"> 枯死木や材質腐朽などの影響により幹の折損が懸念される危険な樹木（不良木），斜面で不自然に傾斜して倒伏の恐れがある樹木は，発見次第速やかに伐採するとともに，越境した枝などは適宜剪定を行います。 樹林構成種の多様性に配慮し，コナラ，クヌギといった優占種だけでなく，エノキ，イヌザクラ，ウワミズザクラなどの郷土種をはじめ，多くの樹種にも注目して育成します。 樹林性の鳥類の生息環境維持のため，階層構造が発達した多様な樹林を持続できる管理を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 草地に生息する昆虫（トノサマバッタ，エンマコオロギ，ニホンミツバチ，ダイミョウセセリ等）の生態に合わせ，多様な草地環境を維持するために，草地全面を一斉に刈り取りすることなく，刈り残しの部分を設ける他，訪花性のハチ類やチョウ類のために，開花植物を含むようにします。 林縁部に昆虫類が利用するアザミ類やヨモギの生育しやすい環境を維持するため，アズマネザサの刈り取りを行います。 斜面が裸地化している箇所については，低草本が繁茂するよう，刈り取りの管理圧を変化させ分布域を伸ばせるように配慮します。 	
東地区	<ul style="list-style-type: none"> 枯死木や材質腐朽などの影響により幹の折損が懸念される危険な樹木（不良木），斜面で不自然に傾斜して倒伏の恐れがある樹木は，発見次第速やかに伐採するとともに，越境した枝などは適宜剪定を行います。 樹林構成種の多様性に配慮し，コナラ，クヌギといった優占種だけでなく，エノキ，イヌザクラ，ウワミズザクラなどの郷土種をはじめ，多くの樹種にも注目して育成します。 樹林性の鳥類の生息環境維持のため，階層構造が発達した多様な樹林を持続できる管理を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> キンランやアマナ等，林床植物の生育に必要な，早春季の日照を確保するため，生育地およびその周辺において，アオキなどの常緑低木やアズマネザサが繁茂しないよう，刈り取り管理を行います。 枯木（朽木）はキマダラミヤマカミキリやカブトムシ，コクワガタなどの生息場所であり餌となるため，伐採した樹木は玉切りにし林床に積み上げておきます。 林縁部に昆虫類が利用するアザミ類やヨモギの生育しやすい環境を維持するため，アズマネザサの刈り取りを行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 現時点では，土砂浸食による崩壊地は確認されていませんが，定期点検により異常が発見された場合は，早期に対処します。